

望ましい応答／望ましくない応答

A	○	「やる気を出せば、人には負けないという自信はあるんだけど、そのやる気が起こってこないんですね」
	△	①「自分に自信はあるんだけど、やる気が起こらないんですね」 ②「やる気さえ出ればと思うんだけど、それが出ないんですね」
	×	①「本当に勝てるものなら、やってごらんなさいよ」 ②「やる気がないのは、負ける不安を合理化しているんじゃないですか」 ③「別にできないから、負けたからといって、恥ではありませんよ」
B	○	「周囲の人たちは楽しそうにやっているのに、自分は何をしたいのかさえ、つかめない感じがするんですね」
	△	①「いろいろやりたいと思うけど、自分が何をしたらよいのか、自分が何をしたいのか、つかめないんですね」 ②「楽しいことをやっている人たちを見るけれど、何をしているか、わからない感じがするんですね」
	×	①「誰だって、いつもそんなに楽しいわけじゃないんですよ」 ②「いつもそんな感じですか？」 ③「実は、私もそうなんですよ」
C	○	「進路のことも含めて、両親にはいつもわかっていてもらいたいし、気に入ってもらいたいと思っているんですね」
	△	①「両親があなたに一番近い人たちですね」 ②「心の中でいつもご両親が見つめていてくれるんですね」 ③「この歳になっても、両親にべったりなので、少し恥ずかしい気もする」
	×	①「あなたは、ずいぶん甘えっ子なんですね」 ②「少しは両親から離れる努力をしないとダメですね」 ③「ご両親とは、今も一緒に住んでいるんですか？」

(出典)

倉石精一編（1973）『臨床心理学実習－心理検査法と治療技法』 誠信書房 より引用・修正